

**山形県立荒砥高等学校同窓会
関 東 支 部**



支部報

スクールカラー・紫

令和5年8月

発行：山形県立荒砥高等学校同窓会 関東支部

事務局：〒359-1141 埼玉県所沢市小手指町1-7-C-605 長谷部誠方 TEL.04-2939-2606



「わが母校よ
永遠なれ」

荒砥高校同窓会 関東支部
支部長 **別府忠雄**
(昭和34年度卒)



今年も暑い日が続いておりますが、関東支部の皆様にはお変わりない事と存じます。

さてこの度、私 別府忠雄は図らずも新支部長に就任いたしました。

と言いますのは、前支部長菅野孝雄氏の死去を始め、他の役員の高齢化や病氣等の問題を抱え、役員維持が困難な状況が続いております。

しかし、母校や関東支部を思う、勇氣ある後輩たちが新役員会に参加することとなり、その彼らに、強く背中を押されたという訳です。

そういう私も高齢ではありますが、新役員会と共に関東支部のために尽力したいと考えております。今後共、皆様のご指導ご鞭撻をよろしく願ひ申し上げます。

さて本年荒砥高校は創立75周年を迎えました。

これまでの75年の歩みを振り返れば、荒砥高校が地域にとってどれほ

ど重要であったか、また、子供たちにとっていかに大切な高校であったかを改めて知る思いです。

本年度の新入生は40名と伺いました。母校の関係者の喜びが伝わって参ります。私も本当に嬉しく思っております。

しかし、少子化の波は止まらず、一喜一憂している場合ではないことも現実です。

新しい歴史を築いて行くことを信じております。

「わが母校よ永遠なれ」

2023年8月

2023年

支部長	別府 忠雄	昭和三十四年度卒
副支部長	守屋 一郎	昭和四十九年度卒
副支部長	山川 昭雄	昭和五十年年度卒
事務局長	長谷部 誠	昭和五十年年度卒
會計	長谷部 誠	
幹事	風戸 強	昭和四十四年度卒
〃	梅津 好春	昭和四十七年度卒
會計監査	空 席	
相談役	沼澤今朝夫	昭和二十六年度卒
〃	新保与四雄	昭和二十六年度卒
〃	宮城 文并	昭和三十年年度卒
〃	大金 民子	昭和三十一年度卒
〃	紺野 邦夫	昭和三十三年度卒
参 与	荒川 繁夫	昭和二十九年年度卒
〃	安達 英雄	昭和二十九年年度卒
〃	安孫子健一	昭和三十四年度卒

荒砥高校同窓会関東支部 2022年度決算報告書

自2022年4月1日～
至2023年3月31日(単位:円)

収 入		支 出	
前期繰越金	713,104	総 会 費（キャンセル代）	0
振込寄付金（76名）	301,000	会 議 費	4,040
寄付金現金（2名）	10,000	印 刷 費（支部報発行、振込用紙、その他）	40,990
広告協賛金（名刺版6口＋法人広告1口）	35,000	通 信 費（支部報発行・発送、その他）	239,276
雑収入（預金利子・その他）	5	交 通 費	
	0	その他・雑費	7,247
	0	寄付金振込振込手数料（30号迄）	21,594
	0	本部総会祝金	0
		支出合計	313,147
		繰越金	745,962
合 計	1,059,109	合 計	1,059,109
上記の通り相違ない事を報告いたします。		預金通帳	717,959
2023.3.31		手持ち現金	28,003
会 計 宮 城 文 井 印		次期繰越金	745,962

荒砥高校同窓会 関東支部 2022年度会計監査報告報告書

上記決算書について、帳簿諸表等を監査いたしました結果、全て適正に
処理されている事を認めます。 会計監査 別 府

2023.4.19

会計監査 別 府 忠 雄 ⑩

會計監査 印

沼澤春夫監査員は、3月上旬死病の為役員を退会、別府支部長が代行して監査を実施致しました。
今年度の会計監査は、コロナ感染防止対策上、例年の通り関係者が一堂に会し行う事が困難な為、必要な帳簿を別府支部長に郵送、監査人を代表して同氏の監査を受ける事となりましたのでご了承願います。
(支部長 別府忠雄、会計 宮城文并)

事務局より

久々に関東支部の総会・懇親会を企画しております。（詳細6P）
コロナ禍もあり、なかなか機会を設けられずにおりました。
又、笹川記念館が建て替えという事で、新しい会場となります。
懐かしい方たちと、おいしい料理に舌鼓を打ちながらご歓談いただければと思います。
一人でも多くの皆様のご出席をお待ちしております。
支部報と共に振込用紙を同封させていただきます。
した。
同窓会の活動は皆様方の寄付により成り立っております。（2022年度は76名の皆さんにお振込みいただき、30万円余の金額が集まりました。）
会の維持のためにも少しでも多くのご協力をお願い申し上げます。
（長谷部誠）

◆ 編集後記 ◆

新役員の下、右往左往しながらも初の支部報をお送りすることが出来ました。

支部報作成にあたり、地主荒高校長・山川コーディネーター・青木同窓会会長・小関観光協会会長を始めとする多くの方々のご寄稿に感謝申し上げます。

荒高存続、魅力化の為地元の皆様方のご尽力に感謝するとともにその成果に安堵の気持ちで一杯です。

この支部報が会員の皆様型のコミュニケーションツールとして、又年一回故郷や母校を思い懐かしんで頂くツールとして少しでもお役に立てば幸いです。

引き続き皆様方のご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

10月には関東支部総会も4年ぶり開催します。一人でも多くの方々のご参加を切にお願い致します。10月にお会いしましょう。

(山川昭雄)

「75年目の春を元気にスタート」



山形県立荒砥高等学校
校長 地主佳子

荒砥高校同窓会関東支部の皆様方には、本校の教育活動に對しまして、日頃より多大なるご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

母校荒砥高校は、稲荷台の校が満開となった四月八日の入学式で四十名の新入生を迎え、全校生七十七名で令和五年度をスタートしました。お蔭をもちまして、昨年以上に校舎内に生徒達の声が賑やかに響く春を過ごしました。また、五月八日には、創立七十五周年記念式典、プロの演奏家によるスクールコンサートを開催しお祝いをいたしました。初夏を迎えた現在、紅白対抗で行われるスポーツ祭の成功に向け生徒会を中心に取り組んでいるところです。

昨年度、策定・公表した本校のスクールポリシーは①確かな学力の育成、②豊かな人間性の育成、③地域に貢献する人材の育成の三つを柱にしています。これまで同様に丁寧で細やかな学習指導に力

を入れ、生徒の進路希望の実現に迫っていきます。また、学校行事や特別活動を通して、互いを思いやり前向きに努力する人間を育むとともに、地域と連携した教育活動を充実させて、地域の皆様に愛される高校となるよう努力してまいります。

県の小規模校魅力化事業の3カ年が昨年度で終了となりましたが、白鷹町のご支援により、町と本校で連携して二期目の取組みを継続していくことになりました。荒砥高校の単独での存続をかけて引き続き生徒募集に注力していくことにしております。

今後も引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。



町中が応援！

荒砥高校魅力化事業

荒砥高等学校魅力化コーディネーター

山川英俊



荒砥高校は、創立以来、優秀な人材を輩出してきた伝統ある学校です。しかし、少子化と共に入学者の減少が続ぎ、令和二年度からは四十名定員となり、「二年連続して定員の半数に満たない場合、学校の在り方について協議する。」と県再編整備計画が示されました。これらを受け、志願者増を意図して始められたのが、町の「高校魅力化事業」です。私は、それに携わらせていただいている一員です。

柱としたことは、第一に「生徒にとって魅力ある学校」ということです。それは、将来に希望が持てる学校であり、自己実現ができる学校です。そのために、総合学科の強みを生かし、生徒のニーズに応えられる教育課程となるよう、先生方がアイデアを絞りました。

もうひとつは、「地域にとっても魅力ある学校」ということです。地元企業で働く人材育成ということもありますが、それ以上に、この町にあって良かったと言われる学校ということです。例えば、甲子園に出場すると町中が沸くように、

生徒の活躍する姿は大人をも元気にしてくれます。それは、ボランティアや地域行事で活躍する姿でも同じだと思います。高校があるからこそ町も元気になる。それが、「地域にとっても魅力ある学校」であると考えています。

そして三つ目は、「町が魅力を支える学校」ということです。町からは、修学旅行費補助等の経済的支援をいただいています。また、商工会や教育委員会等も教育活動に協力的に関わってくださいます。町を挙げて、学びを保証し魅力を支えてくださっているのです。

このように取り組んでいる魅力化事業ですが、今年度は定員いっぱい四十名の新入生を迎えることができました。魅力化に加え、個性を尊重する温かい校風が、中学生や地域の方々に理解していただいた結果であると思っています。

同窓会の皆様には、これからも力強く応援していただけますよう、よろしくお願いいたします。

関東支部の皆様へ

荒砥高等学校同窓会
会長 青木彰榮
(昭和47年度卒業)



同窓会関東支部の皆様にはおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、同窓会活動にご協力いただいておりますことに感謝申し上げます。コロナ禍のこの三年間は毎年実施していた事業や活動が制限され、ようやく以前のように戻りつつあるかと思われる時に、菅野孝雄支部長の訃報に接し驚いたところです。長く支部長として同窓会活動にご尽力頂きましたことに深く感謝申し上げますとともに、心からのご冥福をお祈りいたします。

徒、保護者の方には選ばれる高校になることを願ってやみません。

関東支部の役員体制も、新たに別府忠雄様を支部長に60代の皆様を中心となつて活動されていくということです。地域を支える有為な人材育成をする学校として存続させるべく、共に連携を取らせていただきながら歩みをすすめられればと思います。更なるご指導、ご協力・ご支援の程お願い申し上げます。

110113年度「支部報」に寄せて

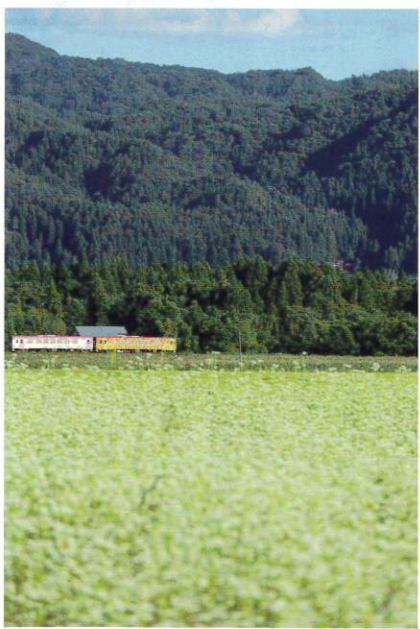
山形県立荒砥高等学校後援会
会長 沼澤政幸



この度後援会長を仰せつかりました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。長年に亘って後援会長としてご尽力賜りました菊地豊宗前会長様に心からの敬意と感謝を申し上げます。菊地前会長同様、学校、同窓会、そして後援会が一体となつて荒砥高校を一層発展させて参りたいと思っております。

さて、紙面を借りて自己紹介と高校時代の思い出のようなものを記させていただきます。私は、荒砥高校昭和四十七年度卒業生です。関東支部の幹事を務めておられます梅津好春さんと同級生です。生まれは中山の上原で、

現在は鮎貝に住んでおります。高校へはバスや自転車、時には禁止されていたバイクで通いました（時効です）。当時は道路の大部分が未舗装で、ばんぼり（土埃）に悩まされながら通学したものでした。道路一つをとってみても、五十年前はこ



んな時代だったんだと改めて思います。バイク通学は禁止されていましたが、免許を取得することは可能で、ほとんどの男子生徒は免許を手に入れ、バイクを買ってもらう時代でした。今だったらスマートフォンといったところでしょいか？ 私は勉強はあまりせず、バイクに熱中した高校時代を送りました。取留がないことを書いてしまい大変失礼いたしました。

荒砥高等学校同窓会関東支部の益々のご発展と会員の皆様のご多幸を、祈念申し上げます。